

事業所番号	2395700301
事業所名	グループホーム大地の丘
自己評価作成日	令和4年10月15日
運営推進会議開催日	令和4年11月25日
外部評価作成日	令和5年1月27日
提出日・公表日	令和5年2月14日

凡例
A. 充分にできている
B. ほぼできている
C. あまりできていない
D. ほとんどできていない

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B.ほぼできている	「その人らしく暮らせるグループホーム」という理念を掲げ、施設内に掲示している。毎月の会議においても全員で理念を唱和し、理念に沿って入居者のケア内容に関する検討を行っている。			基本理念と運営理念が玄関ホールに掲示されている。また、全職員で行われる月1回の会議において理念を共有した上で入居者支援方針を検討している。
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	B.ほぼできている	新型コロナウイルス感染症の流行以降、出かける頻度は減ったが、感染対策をしながらドライブや花火見物、花ひろば等へ出かけている。今年度も隣のミカン狩り園に出かける予定である。	新型コロナウイルス感染症のため、地域と交流する機会が減っているが、出来る限り外出したり地域と交流する努力を行なっていると思う。		新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、地域と交流する機会が減っているが、感染対策を講じながら利用者の外出機会を設け、少しでも地域とのつながりが感じられるような行事を行っている。
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A.充分にできている	運営推進会議を2か月に1回開催し、利用者の暮らしぶりの報告を行い、意見交換が出来る。会議での意見を受けて町の防災担当の方にホームの防災訓練に参加いただき講話を頂くことができた。	運営推進会議にて報告や意見交換が出来ていると思う。町の防災担当の方にホームの防災訓練に参加頂いたのも推進会で話し合った成果であった。		運営推進会議を2か月に1回開催しており、利用者の様子や取組内容について報告している。地域代表者や行政との意見交換の場ともなっており、意見を活かした取組みがされている。新型コロナウイルスの感染拡大中は書面開催されている。
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A.充分にできている	運営に関する相談や、事故発生時の報告を随時行っている。昨年同様に、南知多町の健康介護課より1名運営推進会議の構成員として参加をいただいている。今年度は町主催の福祉敬老フェアに事業所として参加した。	町職員が運営推進会議に参加している。また、職員は地域ケア会議や認知症支援協議体に参加し協力している。町開催の福祉フェアにおいても協力している。		南知多町役場健康介護課職員が運営推進会議に参加している。また、職員は町が実施する地域ケア会議や認知症支援協議体にも参加し、地域包括ケアシステム構築に向けた取組みにも協力している。町福祉敬老フェアにおいても準備段階から協力し、連携の意識の高さが見られた。
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B.ほぼできている	運営推進会議で身体拘束の適正化について毎回検討し、法人の身体拘束廃止委員会にも委員として参加している。年2回法人主催の身体拘束廃止研修会があり、参加した職員がホーム会議で伝達講習を行った。		B.ほぼできている	身体拘束廃止委員会に参加し、その内容をグループホーム会議で他職員と共有している。魔の3ロック、緊急やむを得ない場合の例外3原則についても会議で話し合わせ、伝達もされている。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	B.ほぼできている	ストレスから虐待につながらないよう希望する職員にはストレスチェックを受けてもらっている。法人の虐待防止委員会にも委員として参加し、スピーチロックや不適切ケア評価を行っている。不適切なケアを行った職員に対して個別で指導を行っている。		B.ほぼできている	虐待防止委員会に参加し、その内容をグループホーム会議で共有している。ストレスから虐待につながらないよう希望する職員にはストレスチェックを受けてもらっているが、気付きを促すためにも全職員が必要であるとする。不適切なケアを行った職員に対して個別で指導もしている。教育マニュアルも整備されている。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B.ほぼできている	現在制度を利用している方はいないが、制度に関するパンフレットは事業所内にあり職員が閲覧できる環境にある。			権利擁護に関する制度を利用している利用者はいないが、成年後見制度や日常生活自立支援事業のパンフレットを設置してある。職員が制度理解できるように、事業所内勉強会などで学ぶ機会があるとさらによいと思う。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A.充分にできている	入居者の契約時には、契約書・重要事項説明書・料金表等の文書を提示し説明を行っている。			契約時に、契約書、重要事項説明書、料金表の内容を本人・家族等へ説明している。入居中に内容の変更があった場合は、家族等への十分な周知が必要である。
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B.ほぼできている	毎日のケアを通じて利用者の要望を聞き出すよう心掛けており、家族の来訪時にもコミュニケーションをとり要望が伝えやすいようにしている。また、月に1回サービス担当者会議を開催し、利用者や家族の意向を確認している。玄関にはご意見箱を設置している。		B. ほぼできている	毎月1回サービス担当者会議を開き、本人や家族の意向を確認し、支援内容を検討している。玄関には意見箱も設置し、意見を伝えやすい環境を整備している。運営推進会議では、利用者家族も参加し発言できる機会を設けている。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B.ほぼできている	毎月グループホーム会議に全職員が参加して意見交換を行っている。管理者は定期的に職員と面接を行い職員の意見・提案を聞いている。			職員との個別面談を実施し、指導だけでなく意見を聞くようにしている。困りごとや要望だけでなく、運営に関する提案を引き出せると良い。毎月開催のグループホーム会議では、全職員が参加し、業務等に関する意見交換を実施している。
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B.ほぼできている	希望休日に基づき原則月に2回まで休み希望が出せる体制がある。人事考課制度に基づき各職員の評価を行い給与や待遇に反映させている。常勤職員はそれぞれ委員会等の役割を持ち責任をもって業務に当たるようにしている。		B. ほぼできている	人事評価制度を取り入れ、日頃の業務実績等が給与に反映されている。常勤職員は委員会等の役割が与えられている。個別面接ではそれぞれの能力レベルに合わせた助言を行っていることが確認できた。働き方改革の観点から有給休暇の計画的取得や超過勤務申請が出来ているかなどもチェックする必要があると思う。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B.ほぼできている	管理者も職員と一緒に業務を行いOJTを行っている。法人内外の研修には各職員が随時参加し、グループホーム会議で伝達講習を行っている。		B. ほぼできている	新入職員に対する研修プログラムが準備されている。研修に参加した職員が、グループホーム会議で伝達している。今年度は計画的に管理者研修を受けている。職員育成の観点からも、計画的な研修参加予定を立てることが望ましい。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	B.ほぼできている	代表職員が地域ケア会議に出席し、他のグループホームや介護事業所の職員と交流し情報交換を行っているが、ネットワークや相互訪問の仕組みはできていない。			職員が地域ケア会議及び認知症支援協議体に参加し、同業者と事例検討を行ったり、支援策を検討している。また、認知症家族会や町福祉敬老フェアの模擬認知症カフェでは他事業所職員と協力して企画等実施している。今後Webでの情報交換会や他事業所見学などさらなる交流ができる体制が構築できるとよい。
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B.ほぼできている	食事の支度や片付け・洗濯など、利用者と一緒に行うようにしている。また、食事の量や飲み物など利用者が決めている。			利用者の能力に応じ、役割を持たせたり、食事の量や飲み物などを利用者が考えて決めている。その時々で、利用者のベースに職員が合わせている。食器の準備や片付け、洗濯などを利用者が自分の役割として行っていることがケース記録等で確認できた。
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B.ほぼできている	新型コロナウイルス感染症の流行以降家族との外出は中断しているが、感染対策を実施しながら面会は継続している。	新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、環境を工夫し家族との面会ができるように配慮されていることが確認できた。今後も感染状況に応じた対応を続けていきたい。		新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、環境を工夫し家族との面会ができるように配慮されていることが確認できた。今後も感染状況に応じた対応を続けていきたい。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A.十分にできている	入居に際し本人と面談したり、ご家族に「暮らしの意向聞き取りシート」を記入してもらい 意向を確認している。また、日々の生活の中で食事の量や飲み物など常に本人に意向を確認している。それらの意向は担当職員が24時間シートに記入し全職員間で共有している。			入居時の「暮らしの意向聞き取りシート」、入所の中で本人の意向も踏まえて作成される「24Hシート」を活用し、利用者の意向の把握に務め、その内容を全職員で共有されていることが確認できた。
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A.十分にできている	グループホーム会議を毎月開催し、職員全員で利用者のケア内容や課題について検討を行っている。また、介護計画については担当職員が行ったモニタリングに基づき計画作成担当者が立案し、サービス担当者会議で家族にも確認している。	本人・家族の意向を確認し職員間で共有されている事が確認できた。サービス担当者会議・モニタリング・計画作成は年に1回の為必ずしも現状に即しているとは言えないが、出来る範囲で行っている。	A. 十分にできている	本人・家族の意向を確認し、グループホーム会議では職員間でケア内容や課題の情報共有・検討をされている。サービス担当者会議や担当職員によるモニタリングの実施、計画作成担当者による計画の作成がなされている。また、家族の意見も確認・記載もされており、支援計画に反映されていることが確認できた。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	B.ほぼできている	介護業務ソフト導入により、申し送り機能でヒヤリハットや特筆事項等の情報共有が随時出来るようになった反面、紙ベースの頃と比べて24時間シートに対応した記録がしにくくなっていることが課題である。		B. ほぼできている	24時間シートやケース記録を作成し、適切な支援が行われているか検証できるようにしている。24時間シートに沿った支援が行えたかどうか、ケース記録上で確認できるようになっている。また、実施できなかった理由も記載されており、情報共有ツールとしてより活用できるとよい。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	B.ほぼできている	地域ニーズへの対応はまだ出来ていないが、地元の花火を観てもらうため夜間に外出したり、帰宅願望の強い方には個別で自宅近くまでドライブしたりと入居者個々のニーズへの対応を行っている。	地元の花火見物を企画したり、個別でドライブしたりと入居者個々への対応は柔軟に行っている。地域のニーズをとらえ対応していけるよう期待したい。今年度はインスタグラムでの発信を積極的に行なっている。		コロナの影響により家族参加型のイベントは開催できなかったが、利用者個別のニーズ把握を行い、柔軟に支援を行っている様子に伺える。新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、地域資源や人材との連携・協働できるような取組みを検討していけるとよい。
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	B.ほぼできている	豊浜出身の方に地元の花火を観てもらうため夜間に外出したり、帰宅願望の強い方には個別でドライブに行き自宅近くまで行ったりと出来る限り対応を行なっている。	コロナ渦でも出来る限り対応を行なっていることがケース記録等から確認出来た。今後感染状況を見ながら、地域資源や人材との連携・協働できるよう努めていただきたい。		地元の花火見物のため夜間外出したり、個別でドライブに行き自宅近くまで行ったりとコロナ渦でも出来る限り対応を行なっていることがケース記録等から確認出来た。再開の時期を見極め、コロナ前と同様の地域での活動参加ができるよう努めていただきたい。
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A.十分にできている	それまでの医療機関に継続して受診していただいている。必要な場合は受診時に現在の状況を記入した用紙を家族に渡したり、看護師が直接主治医や薬剤師と相談している。また、通院が困難な入居者には必要時家族を通じて歯科往診をお願いしている。			それまでの医療機関に継続して受診されている。必要に応じて看護職員が医師への報告書を作成し、入所者の情報を正確に主治医に伝えるよう努めている。また、歯科の訪問診療も受けられるよう対応している。
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	B.ほぼできている	今年1年間は入退院された方はなかったが、入居者が入院した際には看護サマリーと24時間シートを送付し入院時連携を行う体制にある。		B. ほぼできている	昨年の資料から、利用者の入退院時には、看護サマリーなどの書類を病院へ送付し、スムーズな入退院に向け病院と情報共有を行ってきたことが確認できた。運営推進会議に協力医療機関も参加し日頃から情報連携を図っている。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B.ほぼできている	「グループホームにおける重度化(看取り) 対応に関する指針」を作成し、入居契約時に説明し同意を頂いている。また、サービス担当者会議の際には重度化した場合の本人・家族の意向を確認している。		B. ほぼできている	入居時に重度化に関する指針を説明し、同意をとっている。サービス 担当者会議の際には重度化した場合の本人・家族の意向を確認されていることが確認できた。状態の変化や加齢に伴って、本人や家族の気持ちの変化にも寄り添えるような対応を続けていただきたい。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
24	急変や事故発生時の 備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B.ほぼできている	緊急対応のマニュアルがあり対応方法の統一を図っている。リビングには吸引器を設置し誤嚥・窒息に備えている。BLS研修に参加した職員が7月のグループホーム会議で伝達研修を行い、グループホームでの1次救命処置について話し合った。			新人職員研修プログラムにも緊急対応が盛り込まれており、各種マニュアルや情報提供用紙は整備されている。BLSの伝達講習は行っているが、実際急変発生時に対応できるよう平時から訓練を実施し、職員間の連携を確認することは必要だと思われる。
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B.ほぼできている	地域との協力体制はできていないが、避難訓練は定期的実施している。R4.2月に役場防災危機管理室職員の方より講義を頂き、シェイクアウト訓練等実施した。昨年作った防災頭巾がすぐに使えるように食事の椅子に付けられる防災頭巾入れを作成した。	立地上地域と協力が難しいと考える。定期的な訓練の実施と振り返りを行っており、災害時に備えている。また、町防災担当者から講義をもらったり防災頭巾を手作りするなど取り組みもしている。	B. ほぼできている	定期的な訓練の実施と、そこから出た意見や反省点をまとめている。アクションカードを作成し災害時の行動に備えている。また、町防災担当者を呼んで講義をもらったり防災頭巾を手作りするなど入居者とともに意識をもって行っている。今後地域との協力体制の構築が望まれる。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B.ほぼできている	「否定しない・指摘しない・怒らない」をグループホーム年間目標に掲げ支援に取り組んでいる。入居者の意向を尊重し否定しない支援を考え、24時間シートに記入し共有している。		B. ほぼできている	「否定しない・指摘しない・怒らない」を年間目標に掲げ支援に取り組んでいる。利用者を「〇〇さん」とさん付けで声をかける事が職員で統一されている。排泄や食事について自尊心を傷つけないような配慮がされていることが資料より確認できる。接遇チェックリストを活用し、全職員で確認し合いながら適切な対応を続けてほしい。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B.ほぼできている	24時間シートを作成し、本人や家族の意向を反映した生活が送れるよう支援している。また、日課の体操や心経も、参加するかしないかは最終的には本人に決めてもらい無理強いないようにしている。			利用者ごとに24時間シート等を作成し、本人や家族の意向を反映された生活が送れるよう、支援している。日課の体操や心経、屋外作業なども参加するかしないかは最終的には本人に決めてもらっていることが記録から確認できた。入浴に関しても同様に、頻度や方法など本人の意向に合わせている。
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	B.ほぼできている	配膳や調理ができる利用者には一緒に 行ってもらっている。昼食と夕食の副食は業者の製品を採用しているが、ご飯と味噌汁は毎食施設で作っている。また、特別感のあるユニット調理や入居者のリクエストにこたえた焼きそばやチャーハン、カレー作りなども随時行っている。		A. 充分にできている	利用者のできる範囲で食事の準備や片付けを職員と行っている。定期的に食事会を開催したり、畑で野菜を栽培・収穫し、それを使った料理を作るなど、入居者が楽しめる支援を行っている。協力して作った食事の記録写真では入居者のうれしそうな様子が随所に見られる。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	B.ほぼできている	昼と夕食は業者の製品を採用しており、栄養バランスは整っている。食事摂取量や水分摂取量は利用者ごとに記録している。食事摂取量が少ない利用者には栄養補助飲料を提供したり、少しでも摂取できるよう提供の仕方を検討している。			栄養計算された業者の昼・夕食を採用しており、栄養バランスは問題ない。利用者個々に合わせて、ソフト食など安全に摂取出来る形態の準備がされている。水分摂取等については24時間シートに支援計画されている。
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	B.ほぼできている	口腔機能を保つため、毎日口腔体操を行ない、食後に歯磨きの声掛けや介助を行っている。毎月併設デいの歯科衛生士が利用者の口腔状態を確認しケア方法の指導を職員に行っている。		B. ほぼできている	口腔機能維持のために、毎日の口腔体操、歯磨きの声掛け・介助が行われているとともに、毎月歯科衛生士が口腔状態を確認し、スタッフにケア指導されていることが記録で確認できた。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B.ほぼできている	利用者の排泄状況は記録に残し、職員間で共有している。失禁がある利用者には定期的に利用者に適したトイレ誘導を行っている。利用者ごとの排泄パターンや尿量に応じたオムツを使用している。排便コントロールについても入居者の体調変化に応じて随時見直している。		B. ほぼできている	排泄状況は記録し、利用者によってはトイレ誘導を行うなど、利用者に沿った排泄の支援を行っている。利用者ごとの排泄の支援方法等はグループホーム会議で話し合いがなされ、職員間で共有されていることが確認できた。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	B.ほぼできている	原則2日に1回入浴していただいているが、希望する方は毎日入浴したり入浴が負担となる方には入浴の頻度を考慮している。入浴を嫌がる利用者にはその人に応じた誘い方や入浴方法を検討し実践している。			サービス計画や入浴の記録から、利用者個々の状態に合わせて入浴頻度や方法を実施していることが確認できた。入浴頻度や方法を検討され、体調や気分によってシャワー浴への切り替えなどケア方法を検討されている。
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	B.ほぼできている	日中は体操や般若心経など出来るだけ活動し、夜間良眠できるよう支援している。疲労が強く昼寝が必要な方にはとっていただき午後からも活動できるように配慮している。その方の生活習慣を尊重して就寝時間は自由に決めてもらっている。			生活習慣に配慮しながらも、日中は体操や般若心経を唱えるなどできる限り活動していただき、夜間によく寝られるよう支援している。利用者ごとに昼寝をしたり、就寝時間を決めたりし、柔軟に対応している。
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B.ほぼできている	看護師が内服薬の管理・セットを行い、薬の情報は1冊のファイルにまとめ各職員が確認できるようになっている。服薬方法が変更になった時には連絡ノートで周知している。		B. ほぼできている	全職員が服薬状況を確認できるよう、処方内容は一冊のファイルにまとめられている。24時間シートに服薬支援方法について記載されている。変更等があった場合は連絡ノートで即時情報共有できる仕組みとなっているが、その後の症状変化を記録しサービス担当者会議等で情報共有できるとよい。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	B.ほぼできている	ゴミ捨て・食器拭き・食事の配膳など、生活の中でその人の能力に合わせた役割を持ってもらえるよう支援している。職員がさりげなくサポートし、出来たという達成感を感じられるようにしている。	ケース記録や24Hシートから、ゴミ捨て・食器拭き・食事の配膳、洗濯物たたみなど、その人の能力に合わせた役割を持ってもらえるよう支援されていることが確認出来た。役割を遂行し達成感が得られるよう職員がさりげなくサポートしている。		趣味や習慣が継続できるよう、聞き取りシートを活用している。ケース記録や24Hシートから、ゴミ捨て・食器拭き・食事の配膳、洗濯物たたみなど、生活の中でその人の能力に合わせた役割を持ってもらえるよう支援されていることが確認出来た。役割を遂行し達成感が得られるよう職員がサポートしている。
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	B.ほぼできている	新型コロナウイルス感染症の流行以降、家族との外出はできていないが、希望する利用者にはドライブで外出と外の景色を楽しんでもらっている。また、帰宅願望の強い方には個別で自宅近くまでドライブに行く等、出来るだけ対応している。	コロナ禍のため、地域の人との直接交流はできていないが、外出レクリエーションやミニドライブは実施している。以前のように近所への散歩を取り入れたいが、散歩を希望する入居者が少なくなっている。		新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、地域の人との直接交流はできていないが、外出レクリエーションやミニドライブを実施していることが資料より確認出来た。帰宅願望の強い方には個別で自宅近くまでドライブに行く等、出来るだけ対応されていることが確認出来た。
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	B.ほぼできている	家族と相談して本人持ちの財布を作り、支払いができる利用者には自分でしてもらっている。コロナ禍で買い物に行けない為、施設内で不定期に「なかよし売店」を開いたり、厨房職員に協力してもらい買い物を楽しんでもらっている。			支払い可能な利用者には、家族と相談して財布を持ってもらい、買い物時に支払いをしてもらっている。コロナ禍の現在は、施設内で時々行われる「なかよし売店」で、お菓子やふりかけなど買い物を楽しんでいる。今後も本人のできることに対して、見守りや支援を継続していただきたい。
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B.ほぼできている	手紙をファイルにとじ保管していつでも読み返せるようにしたり、電話を取り次ぎ家族と話をしたりする支援を行っている。			家族とのつながりを保つために、手紙をいつでも読み返せるような工夫がされていたり、家族と電話で話をしたりする支援を行っている。毎日手紙ファイルを眺めるなど、入居者の生活にとって大切な支援になっている。
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B.ほぼできている	食卓やイス、ソファ等は家具調で、家庭的な雰囲気になるよう配慮した。リビングには季節を感じられるような花や飾り(雛人形や正月飾りなど)を随時飾っている。時計や絵画は入居者の目線に合わせて低く取り付けている。入居者の目線に合わせてベランダに植物を置いている。		B. ほぼできている	自宅で使用するような家具を設置し、家庭的な雰囲気になるよう配慮をしている。リビングには季節を感じられるような花や飾り(雛人形や正月飾りなど)を随時飾っている。部屋には自分の好きな物を置くなど、利用者が心地よく過ごすための配慮がある。入居者の目線に合わせてベランダに植物も置いている。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)	
IV. 本人暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)								
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	B.ほぼできている	24時間シートを作成し、本人や家族の意向に沿った生活が送れるよう支援している。また、その日の気分により決められるようおやつや飲み物や食事の量は都度確認している。			入居時の「暮らしの意向聞き取りシート」、入所の中で本人の意向も踏まえて作成される「24時間シート」を活用し、意向の把握に務めるとともに、利用者に寄り添った対応をされている。	
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	B.ほぼできている	入居に際し情報収集をして出来るだけ習慣を継続できるよう支援している。昔から長い髪を結い上げている人はそのヘアスタイルを継続してもらったり、自宅から位牌や仏壇を持参し夫の供養を続けている人もいます。			入居に際し情報収集をして出来るだけ習慣を継続できるよう支援されている。昔からのヘアスタイルを継続してもらったり、自宅から位牌や仏壇を持参し夫の供養を続けている利用者もいることが資料より確認できた。	
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	B.ほぼできている	職員が毎日検温、体調観察を行なっている。看護師が職員として配置され日常的に相談できる体制にある。緊急時にも連絡をとり、受診の必要性の相談や対応方法を確認している。入居者に関する情報は連絡ノートで随時共有している。			B. ほぼできている	介護職員、看護師がそれぞれ配置されており専門的な視点で支援できている。入所者に関する事は、連絡ノートを使い全職員が共有できるようにしている。看護師とは緊急時に連絡し相談できる体制にある。また、ヒヤリハットが発生した際にも改善策や対応について検討している。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	B.ほぼできている	担当職員が入居者ごとの「24時間シート」を作成し、全職員で確認・修正している。起床・就寝時間も過ごし方もそれぞれの入居者で異なっている。			担当職員が入居者ごとの24時間シートを作成することで、それぞれにあった生活リズムを把握し、対応している。変化していく生活習慣に対しても、全職員で確認・修正し定期的に見直すことで対応している。	
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	B.ほぼできている	家具やベッドは持ち込みとし、入居者が落ち着くようしつらえにしている。自宅から位牌や仏壇を持参し夫の供養を続けている入居者もいる。家族からの手紙や写真を身近に置いている入居者もいる。			A. 十分にできている	入居前に使用していた家具や物を居室に持ち込むことで、できる限り落ちついた生活が送れるよう配慮している。家族からの手紙を見られる環境を準備したり、仏壇など大切なものを身近に置いて安心できる環境を整えている。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	B.ほぼできている	玄関に通じる扉はオートロックで通常は施錠しているが、希望があれば付き添って出ている。コロナ禍で現在外出事はできていないが希望者はドライブに行ったり神輿や櫓などを手作りして施設内で楽しめるイベントを開催している。			玄関扉は施錠しているが希望があれば出る事できる。コロナで外出事はできていないが、ドライブに行ったり、施設内で楽しめるイベントを随時開催しているので、もう少し良い評価でも良いのでは。人のいない場所にはどンドン外出してほしい。	玄関に通じる扉はオートロックで通常は施錠している。希望があれば付き添って出る事が可能となっている。コロナ禍で外出事はできていないが、希望者はドライブに行ったり、神輿や櫓などを手作りして季節毎に施設内で楽しめるイベントを開催していることが資料より確認できた。
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	B.ほぼできている	入居者の能力を把握し、調理や配膳など役割を果たせるよう職員が関わりながら支援している。た、施設内で楽しめるよう手作りのパズルを作ったり、熱中できる手仕事を準備している。			入居者の能力を把握し、それぞれできる範囲で役割を持って生活してもらっている。家族へ配付されるグループホーム通信からも、食事の準備などのできることや行事への参加で楽しんでいる様子が確認できた。	
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	B.ほぼできている	仲の良い入居者同士会話が弾むよう食事の席など配慮したり、昔の思い出など支援員が話題を向け、会話を引き出すよう支援している。心経の木魚叩きや昼食前の発声練習では、その日ごとに違った入居者に役割をお願いし役割を担ってもらっている。			B. ほぼできている	楽しく過ごすために、仲のいい人と食事の席を近くするなど会話ができるよう配慮したり支援員が話題を向けて会話を引き出すよう支援している。他の入居者と過ごす活動の中では、心経の木魚叩きや昼食前の発声練習の先導など役割があったり自主的にごみ捨てなどの仕事に取り組めるようアプローチを工夫している。

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々に関わったり、交流することができる	B.ほぼできている	昨年に引き続きコロナ感染予防の為買い物などの外出はできていないが、朝夕にゴミ捨てに行く際に隣にあるミカン狩り施設の方や草刈りボランティアの方、同敷地内にある特養職員等に挨拶している。	コロナの為買い物などの外出はできていないが、併設施設もあるため敷地内で行える範囲の挨拶や会話がされている。立地的に近所付き合いが難しいが、近くにある内海高校との関わりが持てると良い。		コロナ感染予防の為買い物などの外出はできていないが、併設施設もあるため敷地内で行える範囲の挨拶や会話がされている。コロナ渦で外出機会が限定的であるため、感染対策に配慮し可能な範囲で職員以外の人との交流もできるとよい。
49	総合	本人は、このGHIにすることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができる	B.ほぼできている	地域住民との交流は少ないが、施設職員とは毎日たくさん話し、大半の入居者は笑顔で過ごされている。サービス担当者会議で本人の意向を確認しているが、意思表示できる入居者は「ここで暮らしたい」と希望されている。	サービス担当者会議録より利用者がここで暮らしを続けたいという意向が確認できる。入居者が施設内で楽しめたり安心した生活が送れるよう、職員が目標を共有し連携されていることがわかる。	B.ほぼできている	サービス担当者会議録で利用者がここで暮らしを続けたいという意向を示されていることが確認できる。外出や地域住民との交流が制限される中でも、入居者が施設内で楽しめたり安心した生活が送れるよう、職員が目標を共有し連携されていることがわかる。